



ガハテ村通信

篠山ナマステ会 事務局 〒669-2221 篠山市西古佐921 振替口座 00930-6-29629

特集

特定非営利活動法人化する 活動の広がりを求めて



山羊増産プロジェクトを推進するお母さんグループのメンバー達 (2016年11月)

篠山ナマステ会のNPO法人化推進については、昨年5月の定期総会の決定を受けて、篠山市民プラザ(篠山市民センター内)のご支援、またNPOシンフォニーの二宮毅行センター長のご教示を頂戴しながら定款等の作成に取り組み、10月の法人設立総会での決定を受けて、兵庫県への設立認証申請の諸手続を進めてきました。お陰様で平成29年1月20日に兵庫県より設立認証の決定をいただき、1月26日に神戸地方法務局での登記を済ませました。

私たちは、定期総会(H28・5・7)の記念講演で龍田成人氏から「今後の国際協力には『活動のためのネットワークづくり』が必要である」とのご示唆を受けて、本会の特徴を踏まえながらNPO法人の設立趣意、骨格となる「定款」にその趣意をどのように盛り込んでいくのか、ということに時間をかけて話し合いました。

また、龍田成人氏からは、篠山ナマステ会の活動が市行政と連携した形で進められていることは大きな特徴であり、会員のみならず篠山市民挙げての意義ある国際支援・交流を今後も展開してほしい、との評価・期待を頂いています。

お世話になりました多くの方々には心からのお礼を申し上げ、特定非営利活動法人として新しいスタートを切る篠山ナマステ会に変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

特定非営利活動法人 篠山ナマステ会 設立趣意書

誰もが豊かで地域に誇りを持ちながら幸せに暮らせる社会の実現は、世界共通の願いです。しかし、アジアやアフリカの後発発展途上国では、政治的混乱や経済活動の弱さから成年男子の国外就労が増え、特に農山村部において地域社会の衰退と貧困が進みつつあります。2015年の大地震により甚大な被害が出たネパール山村部の状況はより深刻です。

私たちは、「平和と健康を担う人づくり」の視点を大切にしなが、自立を目指すネパールの人々に寄り添い、時には支援も行いながら、互いによりよい生き方を学んできました。2001年には多くの篠山市民や現地NGOなどと一緒になってカブレ郡ガハテ村に人づくりの拠点となる小学校を建設しました。そしてスタディーツアー等による交流の推進を図り、小学校の運営面などで生じる課題を共に考えながらガハテ村の自立に協力してきました。大地震後は、被害を受けた校舎の修復と被災児童家庭

などの生活再建への支援を行なっています。しかし、ネパールの災害からの復興はなかなか進んでいないのが現実です。そして、復興に当たっている現地NGOは、生活再建のための資金不足、復興格差、行政との連携面での課題に直面しています。

私たちは、任意団体として実践してきた活動や震災復興支援をさらに充実させ、継続的に推進していくことと、活動を広域的なものにするために他地域の行政や関連団体との連携を深めていく必要があること、ガハテ村の自立のためにはより広域なコミュニティ支援が求められていること、さらには現地行政との円滑な調整等の観点から、社会的にも認められた公的な組織にしていくことが最良の策であると考えます。また、当団体の活動が営利目的ではなく、多くの市民の方々に参画していただくことが不可欠であるという点から、特定非営利活動法人格を取得するのが最適であると判断しています。

「ナマステ（こんにちは：あなたを信じます）」のことは大切に、国際協力事業に深い理解をもつ人々や地域再興に情熱をもって取り組む現地の人々と手を携え、ネパールの自立・発展を支援するNGO活動を強化したいと考えま

す。そして支援や交流活動の充実を通じてネパールと日本それぞれの人づくりに貢献してまいります。

(平成28年10月1日 設立総会)



設立総会で設立の趣意を発表する小嶋代表

■定期総会において認定NPO法人名古屋NGOセンター常務理事 龍田成人氏から『ネパール地震にかかる現状と今後の支援交流活動について』と題し記念講演を受けた。要旨を記載する。

(1)ネパール地震の報告

○地震の発生

4月25日 AM11:56 M7.8
 4月28日にカトマンズ入りし、5月9日に出国する。

○状況

余震が続く中、市民はテントや土管の中で生活を送る。貴重な世界遺産が倒壊し、道路の崩落、山崩れ（土砂崩れ）、家屋はレンガ造りのため、一気に倒壊している

○後日

甚大な被害を受けた地域の中でもアクセスのしやすい地域ではトタンを使って仮設住宅が建てられた。中央政府の対応は遅れ、復興住宅建設は遅れに遅れている。また、支援策も二転三転し、なかなか進まない。

(2)国際協力の活動を通して学んだこと

「ICAN」の設立

1993年初めてフィリピンを訪れ、厳しい環境のもとで生活する子どもや家族と遭遇した。「何かしなくては」の思いから団体「ICAN」設立へ動く

①「ICAN」の発展と経緯

○まずはできることから

- ・ ストリーチルドレンへの奨学金、クリスマスカード、古着、文房具を贈る。
- ・ 里親通学支援、給食支援、医療援助、職業訓練

○行動すれば課題が見えてくる

- ・ ゴミの山の崩落災害から生活向上へぬいぐるみ作りのワークショップ、医療事業の拡充、技術訓練

○国際理解教育へ

日本の小・中・高校での授業を通して、児童労働、貧困、平和、国際協力等を学ぶ。現地訪問時には2ヶ月の事前学習を。

(3)今後の国際協力に必要なと思うこと

○活動のためのネットワークづくり

- ・ 自分たちの特徴をメンバーで共通認識する。
- ・ 周りの関係者を列挙しその特性を考える。

- ・ 関係者との協力を探る。
- ・ 何か得られるかだけでなく、何を提供できるかを考えると良い。

○地方行政との連携

- ・ 与えるもの、与えられるものとの関係が「お互いに学び合い、活かしかう関係」になる。
- ・ 団体や地域の個性を活かした活動が自分たちにとっても価値ある存在と気づくこと。
- ・ 社会の課題のフロンティアにいる認識をもって、自分たちの課題解決にコミットする。

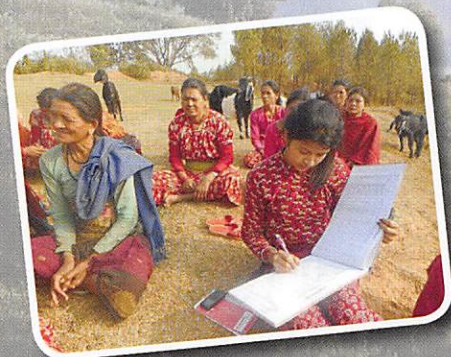
国際協力には人を変える力がある。五感で感じたことが私のベースにある。幸せの意味を見つめ直す機会になったと講演を結ばれた。



講演中の龍田成人氏

特定非営利活動法人

篠山ナマステ会に入会を！



会費はこのようなプロジェクトを支援します。

山羊増産プロジェクトで家庭収入を増やす！

山羊を繁殖させ、換金することで村に住み続けることができます。また、女性グループのリーダー育成を通じて地域づくりに貢献します。

教育支援プロジェクトで地域力の向上を！

セティデビビ小学校の教育充実のため、交流活動や支援活動に取り組みます。また、高校を希望する生徒に奨学金を支援します。

◆ 加入申込用紙 ◆

私は、 会員（年会費 5,000 円）
 賛助会員（年会費 1 口 1,000 円を 口数 _____ 口）
 協力会員（必要に応じて資金、労力等を提供）に申し込みます。

氏名（ふりがな）

〒 _____ 住所

電話

Email Address _____ @